

市政の



現状は 課題は 今後は

聞きました

一般質問

9月2日から4日間にわたり28人の議員が市政について一般質問を行いました。質問の中から関連した内容を取りまとめ、その要旨を掲載しています。

なお、議員ごとの質問の様子は、市議会ホームページで録画配信をご覧ください。



共創

公民連携による

公共施設の再編は

問

公共施設の再編やリノベーションには、民間の知恵をいかすことが有効であると考えます。本市では、エスフォルタアリーナ八王子など、公民連携の手法の一つであるPFI※1を活用した事例があるが、導入後の効果は。

答

公共施設の再編等を進める上で、PFIの活用は有効な選択肢の一つであると考えており、コスト縮減やサービス水準の向上といった効果が確認されている。



PFIにより整備した総合体育館
(エスフォルタアリーナ八王子)

問

PFIのほかにも、DO方式※2など民間企業のノウハウが発揮できる柔軟な制度

答

の実現を含めて、公民連携による公共施設の再編やリノベーションを強力に推進してもらいたい。市の見解は。

DO方式を含め、これまで以上に多種多様な民間企業との連携手法を活用するなど、創意工夫を凝らして公共施設の再編やリノベーションの取り組みを加速させていく。

共創の窓口を開設して

問

4月に共創の窓口を開設したが、社会課題や地域課題の解決に向け、これまでどのような提案が寄せられ、成果につながったのか。

答

窓口開設以降、さまざまな企業から、それぞれのノウハウをいかした提案を受けている。例えば、大型イベント時のトイレ問題は行政だけでは解決することが困難な事例であったが、企業と連携することで、八王子まつりでトイレマップを公開し、宣伝効果や利用効果を検証できた。

問

市民と行政が共に行動する共創都市に向けて、市はどのようなビジョンを持っているのか。

答

社会経済状況が不確実性を増し、急速に変化する中で、行政課題の解決には市民や企業、大学等との共創が不

可欠であり、地域課題に自立的・主体的にかかわってもらうことで、市が持続的に発展できるものと考えている。



平和行政

戦後80年を迎え

平和を伝える取り組みは

問

戦後80年が経過し、戦争体験者の多くが高齢となり、体験を直接聞くことが難しくなってきた。当時を知る方の証言をしつかりと後世に残していくことが必要と考えるが、市の取り組みは。

答

市民の被害が大きかった八王子空襲について、被害者の証言や貴重な写真、記録などを書籍にまとめ、多くの方に学んでもらえるよう努めている。また、新たな試みとして、被爆樹木二世の植樹のほか、語り部の方が実際に戦争を体験した戦跡に赴き、若者のインタビューに答えながら当時の状況を振り返る動画の制作を進めている。

問

戦争の実態を子どもたちにしっかりと伝えるため、学ぶ機会をどのように提供しているのか。

答

毎年開催している平和展において、八王子空襲をはじめとする戦争の実態を伝えるパネルのほか、子どもたちから募集した平和なまちをイメージした絵を会場に展示している。また、講演会やパネルディスカッションを開催し、語り部の方と若い世代との交流の場も設けている。

問

8年10月に開館予定の歴史・郷土ミュージアムでは、本市の戦争の歴史を常設の展示で伝えてほしいがどうか。

答

時代ごとに市の特徴を常設展示室で伝えるため、近現代のテーマとして、八王子空襲を含む戦争と暮らしも取り上げるほか、平和展と連携した特別展示を検討していく。



戦後80年、平和を願い、子どもたちと共に被爆樹木二世を市役所で植樹

※1民間の資金と経営手法・技術・アイデア等を活用し、公共施設等の設計・建設や維持管理・運営を行う手法
※2公共が資金調達し、設計と運営を一括で民間事業者へ委託する手法